

トリセツ

第16号

鳥大説明書

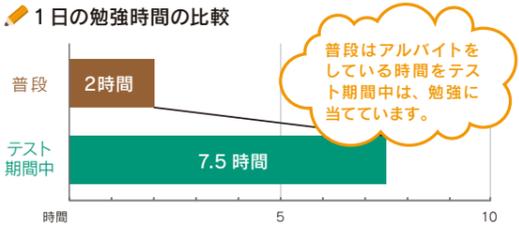
鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

教えて! 普段とテスト期間の過ごし方!

高校とは一味違った大学のテスト期間。鳥大生の皆さんはどのようにテストを乗り切っているのでしょうか?今回は3人のテスト期間と普段の過ごし方を比べることで、テスト期間と普段の違いを発見していきます。これを読めばテスト勉強に役立つ情報が得られるかも!?



医学部生命科学科1年
よしだ ゆきの
吉田 雪乃さん



☑️テスト勉強の工夫
教科書に書いてあることよりも先生が口頭で伝えた内容からテストに出ることが多いので、聞き漏らしたことがないか友達と確認し合うことが大切です。また、自分の意見を述べる問題が出るため、その問題について事前に友達と話し合っておくと対策になります。

テスト勉強の相棒たち

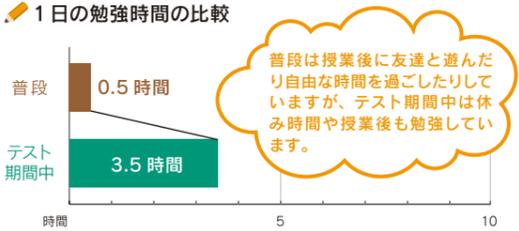
付箋①
授業中に先生が話していた事を書いて教科書に貼ります。

付箋②
レポート提出日などの連絡事項を書き留めて忘れないうちにします。

☑️来年の1年生にアドバイス
出題範囲が広く、一夜漬けは厳しいので早めに対策をすることが大切です。先生が口頭で伝えたことから出題される方が多いので、授業はしっかり聞いておきましょう。



農学部生命環境農学科1年
まつもと たくみ
松本 拓己さん



☑️テスト勉強の工夫
一緒に勉強する友達を見つけて教え合いながらやるのはかかります。長時間の勉強で生活リズムを崩し過ぎるのは良くないので、テスト期間中でも遅い時間まで起きていないようにしています。

テスト勉強の相棒たち

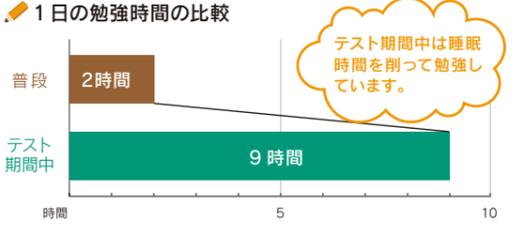
左: シャープペンシル (0.3mm)
芯が細く折れにくいので文字を小さく書いても潰れません。

右: 消せるボールペン (0.38mm)
間違えても消せる上に小さなスペースにもきれいに書けます。

☑️来年の1年生にアドバイス
配られる資料に頼らずに授業はしっかり聞いて、授業ごとの内容を理解しておくようにしましょう。一緒に勉強できる友達を見つけると良いです。



農学部共同獣医学科2年
はらだ なな
原田 菜那さん



☑️テスト勉強の工夫
普段から中央図書館1階の談話スペースを利用して、友達とその日の授業で分からなかった事を教え合っています。1人で勉強できない人は友達存在が大切です。私は1人だと寝てしまったら心が折れそうになりますが、友達と一緒にだと頑張れます。

テスト勉強の相棒たち

緑のマーカーと赤シート
緑のマーカーで資料のキーワードを塗りつぶし、赤シートで覆うと文字が消えるので、自分で穴埋め問題を作って解きます。

☑️来年の1・2年生にアドバイス
前日にしっかりと寝られるように計画的に勉強を進めましょう。効率よく勉強するためにも、先輩にテスト問題の傾向を聞いてみると良いです。レポートなどは友達と読み合って内容におかしい所がないか確認し合うと良いものが書けると思います。

感想 全員が「勉強には友達が不可欠」と感じていたことが印象的でした。私は1人で勉強するタイプなのですが、取材を通して友達と勉強するメリットを知ることができました。次のテストにも今回の取材で得た事をいかしていきたいです。(担当 木村)

インターンシップについて知ろう!!

in 砂の美術館

鳥大生の皆さん!インターンシップに参加する前に知りたい情報はありますか?例えば「企業は学生のどこをみているのか」、「学生は参加前にどのような準備をしているのか」など気になる情報を、インターンシップに参加した鳥大生と企業の方へのインタビューで入手してきました!

【インターンシップ】主に長期休暇中に学生が就業前に企業で就業体験をすること。最近では有償インターンシップもある。



学生interview

- 質問内容
- ①砂の美術館のインターンシップにはなぜ参加しましたか?
 - ②参加するにあたりどんな準備をしましたか?
 - ③参加してみての感想を教えてください!

地域学部地域学科地域創造コース1年 原田 拓弥さん

①鳥取でしかできないことをやりたいと思い参加しました。
②私は鳥取県出身ではないので、お客様に観光案内するときのために鳥取の観光地について調べました。また砂の美術館で現在展示されている砂像テーマの北欧の国名と国旗、場所などについても調べました。
③接客の仕事はお客様の立場に立って考えることが大切だということがわかりました。お客様が写真を撮りにくそうなときに声をかけたり、お客様の持っているパンフレットを見て英語だけではなく韓国語などでも対応したりしました。この経験から学んだことはこれからの生活にも活かすことができると思います。

農学部生命環境農学科1年 仲西 恵さん

①もともと美術館の仕事に興味があったので参加しました。
②授業の中でビジネスマナーの研修を受けました。またインターンシップが始まる前に砂の美術館を事前訪問しました。そのおかげで美術館の全体を見ることができ、接客や職場の様子などについての不安が少なくなりました。
③経験や知識不足を感じても自信を持って、堂々と接することが大事だということを知りました。



感想 今回の取材で、鳥取ならではのインターンシップに参加したいと考える学生がいることがわかりました。他の鳥取の企業にも鳥取ならではの魅力があるのか取材してみたいと思いました。(担当 西田)

企業interview



Q.インターンシップを受け入れる理由は何ですか?
若い学生たちには人と繋がることで、いろんな経験を積んでもらって良い学生時代を過ごして欲しいからです。学生時代は短く、くすぶっては時間がもったいないです。一歩でも外に出てもらっている人とコミュニケーションを取って欲しいと思います。

Q.インターンシップ参加学生のどこを見ていますか?
一番見ているのは「やる気」です。どこまで真剣なのか、この学生は自分をどうしたいのか。例えば自分を変えたい思いがあれば、その思いがどこまで本気なのか、さらに夏休みが終わってからどう自分になっていたのかという思いの強さを見ています。

Q.失敗を恐れている学生がいたらどう思いますか?
そういった学生に対しては「失敗しにこい」と思います。学生は失敗を臆してはいけません。世間からの目、年長者に対する礼儀は大切ですが、そこに敬意を払ったうえで、やりたいようにやればいいと思います。

Q.砂の美術館で特徴的なプログラムは何ですか?
ミニ砂像体験です。学生は砂像作りを手伝うスタッフとして参加して、お客様に対して砂像の彫り方をレクチャーしてもらいます。学生にはインターンシップ期間中に砂像の作り方を教えます。このミニ砂像体験は、砂像作りと人に物事を教える経験ができるプログラムです。

Q.最後に学生に向けてメッセージをお願いします!
行動を起こすこと・外に出ていろんな人とつながり見聞を広めること・好きなことを見つけること・得意なことを見つけること・正しいことがわかること。これらを学生時代にしてほしいです。

今回の取材でインターンシップにこれから参加したいと思っている鳥大生に向けて少しでも参考になればと思います。私自身にも為になる充実した取材になりました。(担当 西村)

“楽しみながら、科学をもっと身近な存在に!”

出前おもしろ実験室の企画元である鳥取大学技術部の方、そして一緒に活動を行う学生隊員さんにインタビューをしました!



技術職員 技術部 工学・情報系部門 河尻 直幸 さん
 学生隊員 大学院 持続性社会創生科学研究科 工学専攻 1年 石井 歩実 さん
 学生隊員 地域学部 地域教育学科 3年 桑村 恵輔 さん
 技術職員 技術部 工学・情報系部門 南葉 恵美子 さん



▲ライデン瓶で電気を体感

石井：私は、元々子どもが好きというところもあり、募集のポスターを見て、興味を持ちました。また私自身が幼い頃によく科学実験を見に行っていて、とても楽しんでいたので、今度は企画する側の立場になって子どもたちを楽しませたいと思って参加しました。

桑村：僕は科学リテラシーという講義の中で子どもたちとかわるイベントとして出前おもしろ実験室が紹介されていて、興味を持ちました。僕は教員を目指しているの、その夢に繋がる良い経験にもなると思ってずっと続けています。

このイベントでは多くの実験が行われているのですが、中でも皆さんが面白いと思われている実験はありますか。

桑村：僕は、空き缶つぶしですね。空き缶の中に少しだけ水を入れて、それを力セットコンロで熱してから二気に冷やすと缶が二瞬で潰れるという実験です。僕が初めて担当した実験ということもありますし、子どもの反応が分かりやすいんです。潰れるときに結構大きい音が鳴るので、それに驚いてく

河尻：出前おもしろ実験室は、月に1回のペースを目安に行っています。また、学内でもイベントを不定期で開催しています。

また、去年は鳥取県が主催している「どリアート」という、総合芸術文化祭の時にブースを出展したのですが、そこでは小学生未満の子どもからお年寄りの方まで本当に幅広い年代の方に来ていただきました。

学生隊員のお二人がこのイベントに携わろうと思ったきっかけはなんですか。

石井：私は、元々子どもが好きというところもあり、募集のポスターを見て、興味を持ちました。また私自身が幼い頃によく科学実験を見に行っていて、とても楽しんでいたので、今度は企画する側の立場になって子どもたちを楽しませたいと思って参加しました。

桑村：僕は科学リテラシーという講義の中で子どもたちとかわるイベントとして出前おもしろ実験室が紹介されていて、興味を持ちました。僕は教員を目指しているの、その夢に繋がる良い経験にもなると思ってずっと続けています。

これまで活動されてきて、嬉しかったことはなんですか。

南葉：2年前、出前おもしろ実験室の10周年イベントを学内で開催した際に、先ほど挙げた、雲を作ろうという実験をしたのですが、それを自由研究で取り上げてくれた子がいました。その子がクラスの自由研究発表会で優秀作品に選ばれたらしいんです。それを聞いて素直に嬉しかったですね。

石井：私は自分が担当している実験に、子どもたちがもう一回来てくれたり、「面白かったよ!」と違う友達と来てくれたりするのを見て、科学を楽しんでくれているんだなと感じたときに、やってきて良かったな、と思います。

桑村：僕は「これはどういう原理?」と実験の質問を聞かれたときに上手く答えられなかった時があったんです。子どもたちに分りやすくできるようになるのと調べて自分で説明資料を作ってみたら子どもたちも実際にその原理を体感できたみたいで感動していました。自分が考えて作ったものを通して子どもたちが喜んでくれていたのを見ると、頑張ったかいがあったなと思えました。

河尻：あと、学校に出向いていた時は、出前おもしろ実験室を終えて荷物を積み込んで帰るときに、子どもたちが外に出てきて、「また来てね!」と叫んでくれたことがありました。とてもやりがいを感じました。

桑村：これから4年生になるにつれて忙しくなると思いますが、やっぱりこの活動が楽しいのでこれからもできる限り参加していきたいと思っています。

石井：私もそう思います。あとは自分の専攻である生物系の実験が少ないので、そのような実験を思いついたらどんどん実践していきたいですね。

南葉：学生隊員の活動を柔軟にサポートできるように自分も様々な実験の勉強をしながら、学んだことを学生隊員に教えていくことで活動の幅を広げていきたいと思っています。

河尻：僕は地域の中でこの出前おもしろ実験室のような科学的な教育の必要性を感じているので、子どもたちと関わってほしいという想いがあります。また時代の流行を取り入れながら、これからも新しい実験や企画などを作りたいです。



▲空き缶つぶしの様子 ▲葉脈標本の試作 完成した葉脈標本▶

イベントで行われた実験のうち特に盛り上がった3つのブース(実験と工作と体験の中から1つずつ)について紹介します。

-196℃の世界

-196℃に冷やした液体窒素を用いて、いろいろなものを冷やすと何が起きるのかを調べるという実験です。右の写真は、膨らませた風船やスーパーボールを液体窒素に入れたときの様子です。参加した子どもたちは、風船がしぼむ様子や冷やしてカチカチになったスーパーボールに興味津々でした。真剣に技術職員の方の説明に聞き入っている子どもたちの様子が印象に残っています。



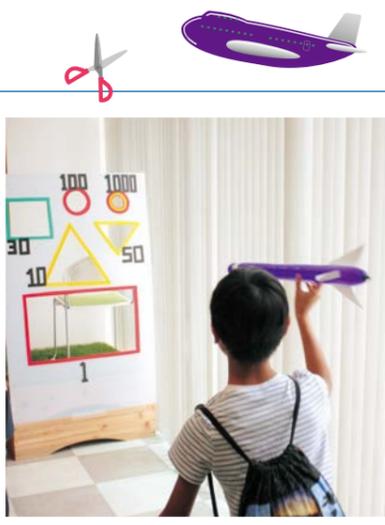
わたしのトリクミ
 出前おもしろ実験室編

出前おもしろ実験室

8月7日から9日に「出前おもしろ実験室」というイベントが鳥取キャンパスの広報センター1階のコミュニティ・デザイン・ラボにて行われました。これは小・中学生を対象とし、参加型の科学実験などを行うことで楽しみながら理科の勉強ができるイベントです。企画したのは、技術部の職員有志と学生で構成された「出前おもしろ実験隊」の方々です。今回は、夏休みに多くの家族連れで賑わったこのイベントについて取材をしました。

風船ロケット

回転しながら安定して飛ぶ風船ロケットは、細長い風船にはねやおもりをつけて作ります。おもりやはねの付け方を工夫することで安定して飛行するようになります。子どもたちは、技術職員や学生隊員の方々の話を聞きながら集中して工作に取り組んでいました。出来上がった風船ロケットを用意されている得点の書かれた的に向かって飛ばして遊びます。より得点の高い的を狙い、何度も挑戦していました。自分で作った風船ロケットはお土産として持ち帰ることができるのもこの工作の魅力です。イベント終了後に広報センターの前で飛ばして楽しんでいる子どももいました。



マルチコプター体験学習

この体験は、天井の高さが必要なため広報センターから移動し、第2体育館で行われました。予約制で人数の限りはあるものの、たくさん子どもたちが参加していました。体育館に到着すると体験のメインテーマである「揚力」と簡単な操作方法についての説明があり、体験がスタートしました。はじめての体験に少し緊張気味だった子どもたちも技術職員の方々のサポートもありマルチコプターの操縦に夢中になっていました。



揚力…飛行機の翼などに働く上向きに浮か上がる力。

【技術部の紹介】
 イベントを主催する「技術部」は、工学・情報系、医学系、農学系と3つの部門の技術職員61名(7月31日現在)で構成される1つの学内内部局です。部門でそれぞれ活動されており、取材をした工学・情報系部門の電気系の技術職員は学生実験や研究活動の支援など様々な依頼を受けています。また、工学・情報系部門では出前おもしろ実験室の他に風紋祭で技術工作教室も行っています。
 ※風紋祭…鳥取キャンパスで行われる大学祭。

感想 技術職員の方々と学生隊員との距離が近く、賑やかでとてもいい雰囲気でした。イベント当日は、子どもたちの笑顔で溢れ、素敵なイベントだと思いました。取材させていただきありがとうございました。(担当 榮)

開催時間前から多くの方で賑わっていて、子どもたちの目が期待で輝いているのがとても印象的でした。スタッフの方も来場者の皆さんも笑顔になれるイベントを取材できて私も楽しかったです。(担当 沼田)